

「体験の風キャンプ in ゆーすぴあ（旭川編）」事業報告書

1 事業実施の背景

平成 25 年 1 月 2 日中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について(答申)」の中で「青少年の生きる力を育む体験活動の重要性が高まる中、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、青少年の体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘がある」ことが言われている。

また、平成 26 年 8 月 29 日閣議決定「子どもの貧困対策に関する大綱」の中では、多様な体験活動の機会の提供を行うこととされ、「独立行政法人国立青少年教育振興機構が設置する国立青少年教育施設において、児童養護施設等の子供を対象に、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動の場を提供するとともに、その成果を広く全国に周知することを通じて、各地域における取組を促進する」とされている。

これを受けて、国立青少年教育振興機構のミッションの一つとして、児童養護施設、母子家庭等の生活困窮と言われる家庭における児童・生徒に対し体験活動の場を広く均等に提供し、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる事業の展開を行うため、今回の事業を実施するものである。

なお、前期の大綱の中でも謳われているように、成果の普及を図る必要性から、事業における事前・事後のアンケートの実施により成果を具体的な指標として測れるように計画した。

2 事業趣旨

道内の母子生活支援施設の子供を対象に、自己肯定感、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動を提供し、その成果を広く周知することを通して、母子生活支援施設の取組を促進する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、上川管内教育委員会連合会、美瑛町、美瑛町教育委員会

5 事業概要

- ・期日 平成 28 年 7 月 26 日（土）～27 日（日）（1 泊 2 日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 社会福祉法人旭川隣保会母子家庭生活支援施設 旭川隣保会トキワの森
- ・募集 25 名（引率者を含む）
- ・指導協力 NPO 法人 どんころ野外学校

6 目的の達成指標（アウトプット）

- (1) 「普段の生活や考え方に関するアンケート」における事後数値の向上
- (2) 参加者の満足度

7 広報

事業の趣旨から一般募集は行っていない。交流の家では平成 26 年度から自立・生活支援キャンプを実施しているが、道内における同様の施設に広く体験活動の場を提供する意味から、これまで実施対象とした施設以外で新たに実施を希望する施設と協議を行い、対象を決定した。

8 参加者人員・類型

参加者 10名（定員比 40%）

内訳：児童 高校生2名、小学生6名、引率者2名

性別 男性5名、女性5名

9 事業日程・内容

(1) 日程（計画段階）

	7:30	10:00	12:00	13:00	15:00	16:00	17:00	17:30	20:30	21:30	22:00
7月26日		施設出発 (バス移動)	ラフティング (南富良野)	昼食	バス移動	到着式 荷物移動	パーティー 演奏	ゆづり おび タイム	ナイトパーティー (夕食) バーベキュー ・ナイトハイク ・キャンプファイヤー ・花火	入浴	就寝
7月27日	6:30	7:00	7:30	8:45	9:00	9:30	12:00	13:10	15:00	16:00	
7月27日	起床	さわやかタイム	朝食	お部屋点検	活動準備	沢登り (小雨決行)	昼食	創作活動 (焼き板づくり)	出発 (バス移動)	施設到着	

※天候状況によって、プログラムを変更して実施する場合があります。

(2) 概要・運営のポイント

体験活動の提供に基本を置き、まずは「楽しい野外活動」を体験することで、体験活動の楽しさを感じることに、参加者自身がまた体験したいと感じられることを重要視した。

また、生活習慣の改善の観点から、早寝早起きに加え、活動準備・片付けを参加者自ら率先して行動できるよう、働きかけをおこなうこととした。

(3) 各プログラム内容

①ラフティング体験（南富良野町シーソラプチ川）（120分）

【指導協力：NPO法人どんころ野外学校】

大自然の中でのダイナミックな体験活動として、本プログラムを実施した。当日は快晴で川の水量も十分であり絶好のコンディションの中、ボート2台に分かれ活動した。

南富良野の豊かな自然を感じながら、水辺の活動での自身の安全管理の方法を学び、グループで協力しながら活動を進める姿が見られた。

参加者からは、本プログラムがもっとも印象に残った、協力してボートを漕ぐことができた、などの声があり、充実した活動であったことが伺えた。また、普段は水に顔をつけられない子が水の中での活動を楽しんでいた、という変容も見られた。



②野外炊事・キャンプファイヤー（180分）

交流の家周辺でヒグマの糞が発見され、研修支援団体の夜間屋外活動を自粛した経緯もあり、参加者の安全確保のため、野外炊事のみ本館建物1階吹き抜けにおいて活動を実施することに変更した。

参加者はキャンプ活動を日頃体験が少ないこともあり、屋外の雰囲気味わいながらの食事を楽しんで活動していた。また、率先して準備・片付けを行う姿、自主的な行動



が見られた。

③ 沢歩き (150分)

交流の家職員の指導のもと、近隣の不動滝川で活動を実施した。当日の水温が低かったため、参加者の体調を考え活動は1時間程度で終了した。

普段自然の中での活動機会がないため、自然の川で観察できる事象、植物、水生昆虫などを参加自身で発見できるような事前の説明を行った上で活動に望み、自然に対する観察力、感性を得られるよう働きかけた。

また、安全管理の観点から、ヘルメット、ライフジャケットの装備に加え、長袖・長ズボン、靴の着用、川の中での歩き方などの説明も十分に行い、安全な活動の展開に留意した。



④ クラフト活動 (110分)

キャンプ活動のまとめとして、クラフト活動「焼き板作り」を実施した。低学年でも体験しやすいプログラムであり、参加者はキャンプの思い出を木の板に絵や言葉で表現し、お土産として持ち帰っていた。



9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 7 87.5%
- ・やや満足 1 12.5%

> 「満足」「やや満足」を合わせて満足度は100%となった。

(参加者の声)

- とてもまんぞく
- めったにない経験ができた
- 充実した
- いろいろな事があって楽しくすごしました

(2) プログラム

- ・満足 6 75.0%
- ・やや満足 1 12.5%
- ・未回答 1 12.5% (楽しかったとの記載あり)

(参加者の声)

- 不安だったけれど楽しむことができてよかった
- よかった

(3) 事業運営

- ・満足 5 62.5%
- ・やや満足 2 25.0%

- ・未回答 1 12.5%
- (参加者の声)
- 臨機応変な対応でよかった
 - よかった

- (4) 職員の対応
- ・満足 7 87.5%
 - ・やや満足 1 12.5%

- (参加者の声)
- やさしかった
 - 気軽に話せてやりづらくなかった
 - 親切でよかった

- (5) 自由記述欄
- キャンプにさんかしてよかったと思います
 - そうじがらくだった
 - いっぱい国立大雪青少年交流の家のしょくいんの人とかかわれたので、すごく楽しかった
 - 自然と直接触れ合うような体験ができ、「体験の風をおこす」ことができたと思います
 - みんなでキャンプにいけて、よかった
 - 普段できないことができて楽しかった。良い経験をした

10 事業の成果

(1) 事業背景の達成度

1泊2日の短い日程での体験活動であったが、普段できない自然体験活動を提供することができ、参加者からも「良い経験をした」「楽しかった」などと満足度も高かったため、目標は達成できたと考えられる。

また、施設職員との反省会においても、参加者から「また交流の家に行きたい」との声が多かったこと、施設長から「また実施してほしい」との強い要望があり、冬の体験活動の実施について検討を行うこととした。

(2) 普段の生活に関するアンケート結果

① 普段の生活習慣13項目

キャンプ前の質問において、「現状認識」では「必ずしている」「している」が73.08%であったが、キャンプ後の「意識」として、「とても思う」「思う」が95.19%と、22.12%上昇となり、意識の向上が見られた。

② 自分の性格（積極的な行動）13項目

キャンプ前の質問において、「現状認識」では「とても当てはまる」「当てはまる」が83.65%であったが、キャンプ後の「意識」として、「とても思う」「思う」が93.2%と、9.62%上昇となった。

③ 自己肯定感

キャンプ前の質問において、「現状認識」では「どれくらいあてはまるか」の設問に対し、「とても当てはまる」「当てはまる」が58.33%であったが、キャンプ後の「意識」として「とても思う」「思う」が79.17%と、20.83%上昇となった。

以上の結果から、短い期間の体験であっても、活動直後は意識の向上が見られる結果となった。

<事業の指標に関する達成度>

- (1) 「普段の生活や考え方に関するアンケート」の事後数値の向上
前記のとおり
- (2) 参加者の満足度 100%

1.1 事業の課題

(1) 参加対象者

今後の課題として、今回の事業は当初親子での参加を検討していたが、施設との事前打ち合わせの段階において、親の参加が見込めないため子供だけの参加とした経緯がある。親は仕事の都合上などから参加が難しい事情もあると考えられるが、今後親子での参加を可能とすることや、家庭の中での継続的な体験活動の実施を促す支援として、親への体験活動の重要性についての働きかけ（親世代は日帰りで可能とするなど）を行い、親子での体験活動の場を設定することで感動を共有していただくことを実現できるように、事業日程や内容を検討する必要がある。

(2) 事業プログラム内容

ダイナミックな自然体験活動として、南富良野に出向きラフティング活動を導入したが、遠方でもあり移動に時間がかかるため、1泊2日では他の活動時間に制限が出てしまう問題がある。今回は、ヒグマの対応による夜間の活動制限や、2日目の沢活動が冷水のため時間を短くしたことから、逆にプログラムに余裕ができ、参加者もゆったりとした体験が可能となった。

交流の家の敷地内など、フィールドを使用したプログラム展開を行うことで、悪天候時の避難場所や、代替プログラムの展開も可能となるため、今後、新たな野外活動プログラムの開発も含め、内容を検討する必要があると考える。

